

(遊)子ども建設ワークショップの実施

— 成果報告 —

学校名：浅野工学専門学校

所属学科 著者名：建築工学科3年 ○石塚 幸夏 ○谷米 匠太（指導教員：山本 大貴）

1. はじめに

本プロジェクトは、昨年度に実施された日本建築学会子ども教育事業部会が主催する「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」と呼ばれる子ども向けのワークショップを提案するコンペで、審査員賞を受賞したワークショップを同学区内の地域交流拠点施設（子安の丘みんなの家）にて、地域子ども達を対象に実施したものである。本報では、提案したワークショップの実施状況とその内容についての報告を行う。

2. 建築材料を活かしたワークショップの提案

本校は、コンクリート事業に深い歴史のある学校であるため、座学・実習授業を通して、建築材料のひとつであるコンクリートの新しい知見を楽しく学ぶことができた。その経験と感動を子どもたちの目線で体感してほしいという思いからコンクリートを題材としたワークショップを提案した。遊びながら建設現場での工事を学ぶという意味で「(遊)子ども建設」と題し、子ども達にコンクリートの材料の一部であり、より容易に作成できる材料であるセメントペースト(水とセメントを混ぜたもの)を活用した。また、工事工程であるセメント練りを体験してもらうことによって、建築材料をより身近に感じてもらうことも目的としている。

3. ワークショップの準備

3-1. ワークショップの企画・検討

ワークショップの企画・材料の検討をするため、打合せや実験を繰り返した(写真1)。特に作り方の手順や、成果物(写真2)を含めた製作過程で建築材料の興味につながるものを検討した。

3-2. ワークショップの事前準備

複数回の打合せと地域の方へのヒアリングを元にワークショップ概要表(表1)を作成した。ワークショップ概要表では、実施日・実施方法・当日スケジュール・

スタッフ・準備物等の各事項目を明記。そしてポスターには、企画タイトル・コンセプトなど、ワークショップを実施するために必要な情報を明記し、子ども向けのかわいらしいデザインを意識した(図1)。



写真1 WSの検討の様子

写真2 成果物の例

表1 ワークショップ概要詳細

WS 提案概要票			
実施予定日	8/7(日)	当日スケジュール	
実施場所	子安の丘みんなの家	9:00 材料準備・道具確認	
参加者規模	小学生20名 (保護者参加可)	10:30 参加受付	
		11:00 ワークショップ(午前の部)開始	
スタッフ	教職員4名 学生2名	12:30 ワークショップ(午前の部)終了	
		12:30 休憩	
準備物	・超速乾セメント ・プライザー(人) ・植栽(カスミソウ) ・マツボックリ ・匙(20本) ・ボール(約20個) ・牛乳パック(約20個) ・新聞紙 ・使い捨てゴム手袋(40袋)	13:00 ワークショップ(午後の部)開始	
		14:30 ワークショップ(午後の部)終了	
		14:30 片付け	
		15:00 ワークショップ終了	
		ワークショップの流れ(例:午前の部)	
		11:00(約20分) 企画説明	
		11:20(約10分) 型枠作成	
		11:30(約10分) セメント練り・打設	
		11:40(約10分) 家の装飾作成	
		12:00(約10分) 脱型	
12:10(約10分) 経過観察・仕上げ装飾			
12:20(約10分) 発表会・撮影会			
12:30(約10分) 片付け			
※練り混ぜ開始から脱型まで約40分			



図1 ワークショップのフライヤー

4.ワークショップの工程

ワークショップの工程は、企画説明及び建築材料についての説明(1)。型枠・装飾の選定(2)。練混ぜ、打設(3)。家の装飾・脱型(4)。そして成果物をワークショップ参加者に向けた発表(5)。そして、発表が終わったら参加者と共に片付けを実施し(6)、最後に記念撮影、ワークショップ終了とした(表2)。

表2 WS(ワークショップ)の工程

1.企画の説明	2.お手本を真似して共同作業	3.わからないところは、先生に聞いてみる
		
4. 完成	5. 完成品を紹介する	6. 後片付けをする
		

5. 広報活動

本ワークショップでは、地域の子ども達を対象としたものであるため、本校と同じ学区(神奈川区)にある地域交流拠点施設(子安の丘みんなの家)のHPや神奈川区のタウンニュースに掲載いただき、事前予約制で実施した(写真3)。参加者は、合計16名であった。



写真3: 子安台地区のタウンニュースの掲載記事

6. ワークショップの実施結果

当日のワークショップでは、コロナ感染症対策も含めて、1グループ10名を制限とし、前半の部・後半の部の2グループに分けて慎重に実施をした。実際の建築材料を使用することによって、「つくる楽しさ」を通して建設業界への関心も高めてもらう試みとなった(写真4)。また、参加者の作成した成果物は、自由な発想から、多様な形の家が作られた(写真5)。地域の方々のご協力も相まってケガなく実施することができた。



写真4 ワークショップの様子

7.おわりに

今回私たちは実際にコンペ提案した企画を地域の子ども達を対象に実施するという特別な機会をいただけました。これからも学内外ともに様々な活動に従事し、その経験を今後の卒業研究にいかしていきたい。何よりも私たち自身が学生生活で経験したこと建設材料を扱う上での楽しさや奥深さに共感、評価していただけたことに感謝したい。また、今回のワークショップを通して、地域との繋がりを考えるきっかけになれたことを期待する。



写真5 ワークショップの成果物

謝辞 この度、ワークショップにご協力いただいた参加者及び地域のみなさま、またワークショップの企画・運営のご助力をいただいた地域交流拠点施設(子安の丘みんなの家)の皆様には厚くお礼申し上げます。